



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第37回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えしていきます。

◆速報 【規則改正】2014年度から「三塁への偽投の禁止」となりました。

昨年12月開催のアマチュア野球規則委員会で、2014年度からの『三塁への偽投の禁止』が正式に規則改正されました。すでに都道府県の連盟に伝えられ、新聞でも報道されています。改正規則の詳細や解説は例年のとおり後日の発表です。オフシーズンから周知徹底のため、本規則の肝要だけが速報となりました。

規則8・05(b)に「投手板に触れている投手が、一塁に送球するまねだけして実際に送球しなかった場合。」とありますが、下線部の「一塁」を「一塁及び三塁」と解釈してください。尚、二塁への偽投は従来通り許されますし、軸足を投手板の後方に正しく外せば、走者のいるいずれの塁へも偽投は許されます。

ルール編 タイムの回数制限

緊迫した場面で攻撃側のサイン交換が上手くいかず、打者は思わずベンチに戻ろうとしています。球審は“タイム”を宣告し、打者を呼び止めるとともに、ベンチに向かって伝令での対応を呼びかけました。監督は伝令に指示を与え、打者への伝達が終わりました。球審はベンチに向かって指で“3”を示し、両手を頭上で交差したシグナルを送っています。なんだったのでしょうか?

先月の解説に続き、今回は高校野球特別規則24項の攻撃側に関するタイムの回数制限について説明します。

(2)攻撃側の伝令によるタイムの制限

- ①打者および走者に対する伝令は、一試合につき3回を限度として許される。
- ②延長に入った場合は、それ以前の回数に関係なく、1イニングにつき1回だけ伝令を使うことが許される。
- ③攻撃側に責任なく試合が中断(例えば選手の怪我や選手の交代など)した際の伝令は、回数としてカウントしない。
- ④伝令は、審判員が“タイム”を宣告してから30秒以内とする。
- ⑤回数の確認は、守備側の伝令と同じ方法で行う。

また、守備側、攻撃側とも相手側のタイムを利用して、伝令を出すことが認められています。

(3)相手側のタイム中に伝令を出すことは認められるが、相手側のタイムが終了してもなお継続する場合はそのチームのタイムとしてカウントする。また、打者をベンチに呼び戻すことは禁止する。

自チームの伝令タイムはもちろん、相手側のタイム中でも打者をベンチに呼び戻すことは出来ません。球審は規則どおり打者を呼び止め、伝令を指示したのです。また、回数制限が定められているので、「3回目」を指で示し、「これで伝令タイムは使い果たし」を意味する“×”のシグナルを送りました。

サイン交換は意思の疎通、日頃から大切に養いたいものです。

